

令和2年度 第3回スポーツ推進審議会 議事要旨

日 時	令和3年2月18日(木) 13:25~15:20
場 所	酒田市役所 第3委員会室
参 集 者	出 席/中條庸右委員、山岸文章委員、佐藤紀巳雄委員、齋藤 勉委員、 田中 学委員、上松由美子委員、大滝美樹委員、穂積 祥委員 欠 席/角南俊介委員 事務局/教育長、スポーツ振興課長ほか
配布資料	・次第 ・出欠席名簿 ・資料1 令和3年度予算(案) ・資料2 「酒田市スポーツ推進計画」の進捗状況 ・資料3 「酒田市スポーツ推進計画」に係るアンケート調査の実施 ・資料4 公の施設の使用料に係る減免指針の策定に伴う規則改正 ・資料5 運動部活動と地域等の連携の在り方について スポーツ庁令和3年度概算要求資料(地域運動部活動推進事業) ・資料6 運動部活動と地域等の連携の在り方に関する検討委員会資料 ・資料7 東京2020オリンピック聖火リレートーチ及び東京2020 パラリンピック聖火リレートーチの巡回展示 ・資料8 学校の働き方改革を踏まえた部活動改革のスケジュール

1. 開 会(略)

【事務局より会議の成立について報告】

・「酒田市スポーツ推進審議会に関する条例」第6条第1項により、審議会は、委員総数の過半数の出席が要件となっている。本日の審議会は、委員総数9名のうち、出席者8名となっており、審議会が成立していることを報告する。

2. あいさつ(教育長)

・東京オリンピック・パラリンピックの延期もあり、スポーツが国際的に危機的状況にある。競技スポーツだけではなく、運動を健康の一助にしている皆さんにもはっきりとした状況把握はできていないが、コロナで少なからず影響は出ていると思う。

・本日の部課長会議の挨拶で、部活動の在り方が国レベルで変革しようとしている話をした。極めて大きなターニングポイントになると考えている。一言でいえば、学校の先生が部活動を支えるという考え方から、地域社会が部活動を支えるということになる。国では2億円の予算を付けて、モデル地域を114か所指定して進めていくようである。私たちとしても国、県、県教育委員会の動き等を見据えて検討していきたい。

・来年度、教育委員会では教育参与にオピニオンリーダーとして志水宏吉さんをお迎えする。日本の教育論を語る第一人者である。先生が掲げる考え方で、「先生は社会派の教師になってほしい」と主張を持っている。学校の先生は、単なる学校の中だけ見ているので

はなく、世の中全体を見て、世の中の課題を教育の面から解決していくといった広い視野を持っていないとだめ、という考え方。差別や不平等、特に格差。抱えている格差、ハンディを無くすよう、教育の面から子ども達を育てよう、という考え方がないと教師の底力が生まれてこないと話されている。

・子どもを取り巻くスポーツ環境には、広い目で見ると非常に大きな格差を背景にしている可能性が強い。家庭の状態が非常に大きなファクターを占めることになる。そういった環境で育った子どもが、将来の酒田の大人になっていく。そういう時にスポーツを支えていく考え方に非常に大きな影響を及ぼしていく。

・スポーツ推進計画では、「生涯スポーツで広くスポーツの機会を提供しよう」と謳っているが、大きな目で見れば、格差社会における社会問題を抱えながらどうやったらスポーツ・運動が皆のものになっていくのか、行政はきちんと考えなければいけない。

3. 協議

(1) 令和3年度予算(案)について【資料1】(資料に基づき、事務局説明)

【委員からの質疑・意見等概要】

○(委員) 体育施設の改修の話があったが、国体記念体育館など令和3年度に使用できない施設・期間はあるのか。

⇒国体記念体育館の改修は、令和3年度に実施設計、令和4年度に屋根と外壁の工事を予定しているが、中は使用できる。令和5年度に内装工事の予定で、中は1年間使用できなくなる。八幡体育館の改修工事は令和4年度に実施する予定である。

○(委員) 国体記念体育館の改修にあたっては、競技団体の要望を聞いてほしい。

⇒トイレは洋式化されている。大きいところでは、屋根、天井、外壁かと思う。床の改修については前回改修しているので、削られる部分がどの程度あるのか、今後の設計段階で決めていく。

○(委員) 水飲み場を設けてほしいと以前から要望が出ている。

⇒今回の改修の設計をするにあたり、何か手が加えられるか検討する。

(2) 「酒田市スポーツ推進計画」について【資料2】

●進捗状況について(資料に基づき事務局説明)

【委員からの質疑・意見等概要】

○(委員) スポーツ少年団の活動について、学校での実態を以前も話した。スポ少の加入率が32%とあるが、これがすべてではない。今回22校に調査をした結果、民間クラブ等への加入も鑑みると、63%から65%がスポーツクラブ等も含めての加入率だった。一方、経済的な理由で道具を買うお金がない、保護者会に参加できない、練習等に送迎できないから加入を諦めるよう親から言われている子も実際いることを聞いている。部活動も一緒。経済的理由で加入できない子もいるのが実態。昔は、学校に物があって親の手を煩わすことなく、それを借りてみんなで活動していたが、社会情勢の中で変化してきているこ

とを実感している。スポ少だけで何とかしようというのではなく、総合型地域スポーツクラブや体育協会などのスポーツ団体の中で広く連携して、そういった子ども達も含めてうまく活動を楽しめるシステムづくりに取り組んでほしい。

○（委員）運動部活動ガイドラインもあるが、実態的に指導者の都合で土日に3時間以上の活動をして、月曜日に具合が悪くなって保健室で寝ている子がいる話を聞いている。数値の見える化を図っていくべき。そういった問題にも共通理解で取り組んでいければうれしい。

○（委員）スポ少加入率は国（日本スポーツ少年団）に登録した人の数値。学校の調査とスポ少の数値には若干誤差が出てくる。ただ、スポ少活動も過渡期で競技スポーツから協調するスポーツに舵を取っている。スポ少活動では、楽しめるスポーツを進めていきたいと思っている。試合で勝てる指導者は良い指導者、負ける指導者は悪い指導者という風潮は今もある。

⇒クラブチーム等も含めた全体的な加入率などの数値はうちでは押さえられないものである。スポ少加入率は一つの指標として見ていただきたい。指導方法も変わっているかと思うが、新しい指導方法を知らずに、自分の経験だけで長い時間練習すれば上達する、と思っている人が現に指導者としていいることも事実。短時間で効率の良い練習ができるよう指導者講習会の中で伝えていきたい。

⇒6年生のスポ少加入率は50%近い数値になる。部活動改革の中で部活動へ継続加入できれば良いが、スポ少が19歳まで加入可能なことも考えれば、継続してスポ少に加入して活動するなど、この機会にスポ少のあり方を検討していければと思う。

○（委員）経済的格差がスポーツにあるという話で、幼児を考えると外で遊ぶ場所が少ないと聞くことが良くある。外で遊ぶことは、お金を掛けなくてもいっぱい遊んで体力アップできる。そういった場所がどれくらいあるだろうか。体育館など、中の施設整備にはお金が掛けられているが、外の公園は危ないとか、不審者対応などもあるし、公園にある遊具はけががするというので撤去の方向にある印象を受ける。市として、屋外遊びの環境を改善しようという動きはあるものか。

⇒公園の遊具は増えている状況にはなく、撤去の方向にあると認識している。アスレチック系の施設整備などの予算も聞かない。スポーツ振興課としても、無料で安全面を担保しながら体を動かせる場所が各地域にあれば良いと思うが、そこまでの予算を考えていることはない。

○（委員）小さいときに色々な動きを経験していると、潜在能力的に培っていくように思う。そういった動きを経験していないと、いきなり小学生になってスポ少活動に参加となっても難しいと思う。

○（委員）最近、与えられたものでしか運動できない子どもが増えている。スポ少などで時間に余裕がない子どもが多い中で、自分で工夫して好きなように体を動かす時間を持つことが大切だと思う。スポ少とか一つ一つを点で見るのではなく、全体で見えていかな

いと変わっていかない。ある意味、今の部活動が変わるという機会は、スポ少や地域など皆で在り方を見直す良いチャンスだと思っている。

- （委員）十坂で3歳から遊びを取り入れた運動を始めて4年目に入る。成果をまとめて、各地区にも広めていきたいと考えている。スポ少の体力テスト（運動適性テストⅡ）も単純にタイムの早い遅いだけではなく、体の動かし方を見るように変わってきた。
- （委員）元気王国では、幼稚園児を対象に体の動かし方などを教える「バク転教室」を開催している。ただ、元気王国のスペースや講師の時間に限りがあるため、体育協会や総合型地域スポーツクラブを含め、小さい子どもが運動を楽しめる仕組みづくりができれば良いと思った。
- （教育長）行政で支援できるところは検討していきたい。小中学校で一人1台パソコンが来年度からスタートすることに関して、文化センター2階に30数台のパソコン機器が導入される。そこは学校専用の研修室ではなく、社会体育や社会教育も対象となっている。文化センターの2階・3階を使って子ども達の体の動かし方などの研究に活用してほしい。特に指導者の研修がポイントになると思っている。外国では教え方を教える大学がある。文化センター2階を来年度から開放するので、ぜひ活用いただきたい。
- （委員）ずっと前から総合型地域スポーツクラブの重要性、必要性をこの審議会で説いてきた。生涯スポーツを推進するためには必要な組織。運動部活動改革の中でも総合型地域スポーツクラブは重要な役割を果たしていくものと思う。酒田には9つのクラブがあるが、中身が乏しい。ぜひスポーツ振興課だけでなく、学校教育課やスポーツ団体等と連携して良いものを作り上げてほしい。総合型地域スポーツクラブへの側面的支援と言うと、行政としての役割を果たしていないように聞こえる。スポーツ行政の役割を果たすためにも率先して、リーダーシップを取っていただきたい。
- （委員）進捗状況の記載内容を見ると、まだ受け身のように感じる。情報交換の場を設定するだけでなく、もう一步踏み込んだ形で進めていただきたい。加えて、広域スポーツセンターが主体的になって総合型地域スポーツクラブの充実を進めていくものではないと考える。社会体育主事の先生方はあくまでもアドバイザーとして考え、市町村の実態に合った総合型地域スポーツクラブを作り上げて行く必要があると思う。
⇒計画自体、行政だけで成し得るものではない。生涯スポーツであれば体育振興会、スポーツ推進委員会、青少年育成であればスポーツ少年団、競技スポーツであれば体育協会、各団体の協力を得ながら、基本的には行政主導というよりも各団体が自分たちの考え方でそれぞれの事業を行っている。
⇒総合型地域スポーツクラブの側面的支援については、立ち上げの段階で3か年程度は市から一定の補助金を出して自立した運営を進めてきた経緯がある。昨年度、9つのクラブの連絡協議会を立ち上げて、補助金を交付したり、研修会費用を補助したりなど話をしたが、9つのクラブで話した際、そこまでの組織は必要ないという結論に至った。そこでスポーツ振興課で事務局をもって情報交換会を立ち上げることになった。来年度か

ら認証制度など変更になる部分があって、このまま問題なくいけるのか相談しながら進めていきたいと考えている。

⇒9つを1つにまとめた方が良いのではないかとといった意見もある。側面的支援とは、そういったことも含めた意味で記載させていただいた。総合型地域スポーツクラブについては、スポーツ振興課が中心的に進めていくものとは考えていないので、側面的に施設の利用、組織運営などを県と協力してやっていきたいと考えている。

⇒総合型地域スポーツクラブの在り方も部活動改革の話の中で見直すようになると考えている。現状9つのクラブがあるが、このままやっていけるか、形態を変えながらやっていくのか課題はあるが、行政主導で進めていくものではないと思っている。意見交換をしながら進めていきたいと考えているが、部活動を受ける話だけではなく、広い世代の生涯スポーツを担っているという観点を大前提として、その上で中学校部活動も土日の活動から受けていこうという話になってくると思う。スポーツ振興課も間に入って進めていきたいと思う。

○（委員）スポーツ医科学について、前回の会議では体育協会を進めてほしいという回答ももらったが、教育長の思いを具現化するのはやはり行政だと思う。講習会を開催するのは、体育協会のできるが、教育長の思いを具現化することは成し得ない。

⇒スポ少本部長からも運動適性テストⅡが新しく変わる話があった。例えば、肩、肘、体幹などの状況をチェックし、想定されるけが、けがの原因を判定するようなコンディショニングチェックシートが新しく出された。有効な使い方も今後出てくるかと思う。年代に合わない無理な運動をするとけがにつながるという点について、スポーツ振興課でも勉強していきたい。

●アンケート調査の実施について【資料3】（資料に基づき事務局説明）

【委員からの質疑・意見等概要】

○（委員）アンケート内容でスポーツを実施したか、していないかだけではなく、やりたいものは何か、実施したかったがなぜできなかったのかまで項目にあると、総合型地域スポーツクラブへお願いしようとか、やり取りが可能になってくると感じた。

●数値目標について（事務局説明）

⇒A3 資料の基本目標Ⅰの子ども（小学生）のスポーツ実施率の数値目標について、目標数値を85%に設定しているが、令和元年度から市独自アンケートから全国的に実施している学校教育課所管の全国体力運動能力運動習慣等調査を活用することに算定方法を変更した（第2回審議会で報告済）。実績値が下がり、目標数値と乖離している。目標数値を下げるか内部で検討させていただきたい。検討結果を5月か6月の第1回審議会で報告したいと考えている。

《情報提供》

⇒今年度はコロナの関係でなかなか動けなかった中、民の力を借りて、酒田米菓（株）からテレビでも紹介されているニュースポーツのモルックの道具を市内各地区体育振興会へ

1セット（合計26セット）贈呈いただいた。2/20に体育振興会の研修会でモルックの研修を行う。また2/22に教育長の下、贈呈式を行う予定である。

（3）その他

●公の施設の使用料に係る減免指針の策定に伴う規則改正について【資料4】

（資料に基づき事務局説明）

特に質疑応答なし。

●運動部活動と地域等の連携の在り方について【資料5・6】（資料に基づき事務局説明）

【委員からの質疑・意見等概要】

○（委員）話題として取り上げていただき非常に有難いと思っている。部活動改革と言いつつも、スポ少や高校生部活動も含めて、地域で一貫した取り組みができれば一番良いシステムだと思っていたところである。スポ少の小学生に中高生が教えてあげることが、将来自分たちが大人になって指導者として教えていく循環になり、それが財産になると思う。土日だけでなく、平日の練習もできれば良いのだが、そこもやっていくとなると大きな改革が必要になってくる。地域スポーツクラブに加入してその指導者から教えてもらう形になれば良いかと思いつつも、指導者は仕事をしているので練習は夜になる。子ども達は疲弊していかないか不安。誰が指導者となるのか、大事な部分。民間クラブで活動する場合、人間関係は学校側で処理しなければならない。土日は学校外で活動して、平日そういった問題を学校内で対応しなければならない場合も出てくると思う。クリアしていくべき課題がたくさんあるが、関係団体と意見交換をしながら令和5年度に向けてやっていく必要がある。

○（委員）土日の大会遠征はどうするのか等、今後もさまざまな課題は出てくる。

○（委員）以前ならば、60歳定年後に指導者になるケースが多かった。放課後、宮野浦コミセンのアリーナを開放して子ども達に自由に遊ばせている。フロッカー用具を一昨年購入して、子ども達にやらせて遊ばせてみた。結構子ども達も集まってきた。今はコロナで集まることができないが、モルックの贈呈を受けることで、週1回でも時間が空いているときに遊ばせたら色々とスポーツに親しむことができると思う。わざわざ道具を借りてこなくても、そこにある道具で遊ばせることが大切。人間関係の輪の話もあったが、色々な子ども、世代と交わることも大切である。

4. その他

（1）東京2020オリンピック聖火リレートーチ及び東京2020パラリンピック聖火リレートーチの巡回展示について【資料7】（資料に基づき事務局説明）

特に意見等なし

（2）スポーツ実施率の向上に関する標語の募集について（資料に基づき事務局説明）

【委員からの質疑・意見等概要】

⇒10/8 の審議会で委員から標語募集の意見を頂戴した。せっかく頂いた意見なので、何かしら仕掛けをしていきたい。小中学校、コミュニティ振興会等から標語を募集し、賞品も準備したいと考えている。

○（委員）標語について、Shall we dance? や、スウィングガールズなど、その言葉と映画でブームが来たり、山ガールという言葉で山登りが若い人たちに広まったり、映像と物語と言葉がドッキングすると、動き出さずにはいられない、ワクワク感などが出てくる。子どもだけでなく、大人の観点からも標語を募集してよいと思う。

⇒来年度の第1回審議会の資料に反映させていきたい。

5. 閉 会（略）

以上